

表 1-2 外国籍の MSM との性行動、検査行動

	25歳未満 (N=153)		25歳-35歳未満 (N= 378)		35歳以上 (N=338)		合計 (N=869)	カイ二乗検定 有意差		
過去6か月間に、外国の方とアナルセックスをした経験										
ある	18	19%	57	21%	33	16%	108	19%	.442	
ない	78	81%	221	79%	174	84%	473	81%		
外国籍MSMとセックスをした場所（経験者のみ）										
日本国内	15	83%	44	77%	24	73%	83	77%	.689	
海外	3	17%	13	23%	9	27%	25	23%		
過去6か月間併用品										
ローション	116	76%	324	86%	259	77%	699	80%	0.01	
ぼっき薬(パイアグラなど)	3	2%	25	7%	42	12%	70	8%	0	
ラッシュ	0	0%	18	5%	22	7%	40	5%	0.094	
5MEO_DIPT(ゴメオ、フォクシー)	1	1%	1	0%	0	0%	2	0%		
いずれもなし	35	23%	49	13%	76	22%	160	18%	0.003	
生涯でのHIV抗体検査（エイズ検査）受検経験										
ある	76	50%	278	74%	247	73%	601	69%	.000	
ない	77	50%	100	26%	91	27%	268	31%		
一番最近にHIV検査（エイズ検査）を受検した時期										
過去6か月の間	50	66%	114	41%	84	34%	248	41%	.000	
過去6か月から1年の間	14	18%	52	19%	38	15%	104	17%		
過去1年から3年の間	10	13%	74	27%	54	22%	138	23%		
過去3年以上前	2	3%	38	14%	71	29%	111	18%		
生涯STIでの罹患経験										
梅毒	10	7%	31	8%	49	14%	90	10%	0	
A型肝炎	2	1%	1	0%	6	2%	9	1%	0.725	
B型肝炎	2	1%	21	6%	37	11%	60	7%	0.013	
C型肝炎	1	1%	2	1%	3	1%	6	1%	0.71	
クラミジア	2	1%	27	7%	27	8%	56	6%	0.003	
尖圭コンジローマ	2	1%	27	7%	16	5%	45	5%	0.023	
淋病	1	1%	11	3%	14	4%	26	3%	0.103	
HIV感染症	2	1%	23	6%	26	8%	51	6%	0.005	
赤痢アメーバ	0	0%	0	0%	10	3%	10	1%	0.004	
毛じらみ	10	7%	90	24%	113	33%	213	25%	0	
性器ヘルペス	1	1%	3	1%	9	3%	13	1%	0.002	
その他	0	0%	3	1%	7	2%	10	1%	0.155	
いずれもない	129	84%	235	62%	157	46%	521	60%		

表 1-3 過去 6 か月間と移動と性行動に関する規範

	25歳未満 (N=153)		25歳-35歳未満 (N= 378)		35歳以上 (N=338)		合計 (N=869)	カイ二乗検定 有意差		
過去6か月居住地以外訪問地域数（仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県）										
いずれもなし	47	31%	99	26%	87	26%	233	27%	.259	
1地域のみ	61	40%	149	39%	113	33%	323	37%		
2地域	30	20%	85	22%	87	26%	202	23%		
3地域以上	15	10%	45	12%	51	15%	111	13%		
規範1 旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人と出会いたい										
そう思う/ややそう思う	113	74%	294	78%	283	84%	690	79%	.025	
あまりそう思わない/全くそう思わない	40	26%	84	22%	55	16%	179	21%		
規範2 旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人とセックスしたい										
そう思う/ややそう思う	11	7%	30	8%	44	13%	85	10%	.036	
あまりそう思わない/全くそう思わない	142	93%	348	92%	294	87%	784	90%		
規範3 旅行するなら、セックスドラッグを持っていくと思う										
そう思う/ややそう思う	80	52%	248	66%	229	68%	557	64%	.003	
あまりそう思わない/全くそう思わない	73	48%	130	34%	109	32%	312	36%		
規範4 旅行するなら、複数のゲイの人とセックスしたい										
そう思う/ややそう思う	31	20%	127	34%	119	35%	277	32%	.003	
あまりそう思わない/全くそう思わない	122	80%	251	66%	219	65%	592	68%		
規範5 旅行に行く前や道中では、旅先にあるゲイ向け商業施設の情報を入手しておきたい										
そう思う/ややそう思う	92	60%	254	67%	261	77%	607	70%	.000	
あまりそう思わない/全くそう思わない	61	40%	124	33%	77	23%	262	30%		
規範6 旅行に行く前や道中で旅先居住のゲイの人と会えるように事前にアプリ掲示板を使って相手を探す										
そう思う/ややそう思う	72	47%	196	52%	181	54%	449	52%	.409	
あまりそう思わない/全くそう思わない	81	53%	182	48%	157	46%	420	48%		
規範7 旅先では、ビジネスホテルや旅館より、有料のハッテン場に泊まりたいと思う										
そう思う/ややそう思う	21	14%	94	25%	44	13%	159	18%	.000	
あまりそう思わない/全くそう思わない	132	86%	284	75%	294	87%	710	82%		
規範8 旅先では、地元でのセックスより刺激的なセックスができる										
そう思う/ややそう思う	76	50%	209	55%	178	53%	463	53%	.481	
あまりそう思わない/全くそう思わない	77	50%	169	45%	160	47%	406	47%		
規範9 旅先では、地元でのセックスより開放的なセックスができる										
そう思う/ややそう思う	58	38%	181	48%	157	46%	396	46%	.103	
あまりそう思わない/全くそう思わない	95	62%	197	52%	181	54%	473	54%		
規範10 旅先では、HIV抗体検査を利用しやすいと思う										
そう思う/ややそう思う	52	34%	115	30%	109	32%	276	32%	.705	
あまりそう思わない/全くそう思わない	101	66%	263	70%	229	68%	593	68%		

表 2-1 東北地域

	25歳未満 (N=13)		25-35歳未満 (N=14)		35歳以上 (N=12)		全体 (N=39)		有意差 カイ二乗検定
過去6カ月間恋人・彼氏、友達とHIVやエイズ対話経験									
ある	6	46%	9	64%	6	50%	21	54%	.608
ない	7	54%	5	36%	6	50%	18	46%	
コミュニティセンタ1 ZEL(宮城県仙台市)									
利用なし	1	8%	0	0%	0	0%	1	3%	.358
利用した	12	92%	14	100%	12	100%	38	97%	
コミュニティペーパーZEL 認知									
認知無し	3	23%	5	36%	0	0%	8	21%	.077
認知有り	10	77%	9	64%	12	100%	31	79%	
safersexキャンペーン認知									
ある	4	31%	4	29%	7	58%	15	38%	.234
ない	9	69%	10	71%	5	42%	24	62%	

表 2-2 関東地域

	25歳未満 (N=28)		25-35歳未満 (N=41)		35歳以上 (N=36)		全体 (N=105)		有意差 カイ二乗検定
過去6カ月間恋人・彼氏、友達とHIVやエイズ対話経験									
ある	20	71%	24	59%	24	67%	68	65%	.522
ない	8	29%	17	41%	12	33%	37	35%	
akta(東京都新宿区)利用経験									
利用なし	10	36%	16	39%	7	19%	33	31%	.154
利用した	18	64%	25	61%	29	81%	72	69%	
フリーペーパーakta monthly paper 認知									
認知無し	18	64%	26	63%	17	47%	61	58%	.264
認知有り	10	36%	15	37%	19	53%	44	42%	
safersexキャンペーン認知									
ある	11	39%	16	39%	14	39%	41	39%	.999
ない	17	61%	25	61%	22	61%	64	61%	

表 2-3 東海地域

	25歳未満 (N=31)		25-35歳未満 (N=75)		35歳以上 (N=32)		全体 (N=148)		有意差 カイ二乗検定
過去6か月間恋人・彼氏、友達とHIVやエイ									
ある	23	56%	44	59%	17	53%	84	57%	.865
ない	18	44%	31	41%	15	47%	64	43%	
rise(愛知県名古屋市)									
利用なし	12	29%	33	44%	8	25%	53	36%	.101
利用した	29	71%	42	56%	24	75%	95	64%	
コミュニティペーパーh.a.n.a. 認知									
認知無し	29	71%	59	79%	18	56%	106	72%	.062
認知有り	12	29%	16	21%	14	44%	42	28%	
「やる!プロジェクト」認知									
ある	8	20%	10	13%	7	22%	25	17%	.486
ない	33	80%	65	87%	25	78%	123	83%	
「やる!プロジェクト」資材受け取り									
過去6か月以内にもらった	2	25%	2	20%	1	14%	5	20%	.234
過去6か月以前にもらった	0	0%	3	30%	0	0%	3	12%	
もらったことはない	6	75%	5	50%	6	86%	17	68%	

表 2-4 関西地域

	25歳未満 (N=24)		25-35歳未満 (N=55)		35歳以上 (N=45)		全体 (N=124)		有意差 カイ二乗検定
過去6か月間恋人・彼氏、友達とHIVやエイズ対話経験									
ある	13	54%	19	35%	24	53%	56	45%	.105
ない	11	46%	36	65%	21	47%	68	55%	
dista(大阪府大阪市)									
利用なし	13	54%	19	35%	12	27%	44	35%	.074
利用した	11	46%	36	65%	33	73%	80	65%	
季刊誌 南界堂通信 認知									
認知無し	22	92%	42	76%	35	78%	99	80%	.270
認知有り	2	8%	13	24%	10	22%	25	20%	
「やる!プロジェクト」認知									
ある	14	58%	27	49%	15	33%	56	45%	.102
ない	10	42%	28	51%	30	67%	68	55%	
「やる!プロジェクト」資材受け取り									
過去6か月以内にもらった	7	50%	20	74%	6	40%	33	59%	.147
過去6か月以前にもらった	3	21%	3	11%	6	40%	12	21%	
もらったことはない	4	29%	4	15%	3	20%	11	20%	

表 2-5 中四国地域

	25歳未満 (N=32)		25-35歳未満 (N=85)		35歳以上 (N=93)		全体 (N=210)		有意差 カイ二乗検定
過去6か月間恋人・彼氏、友達とHIVやエイズ対話経験									
ある	16	50%	46	54%	51	55%	113	54%	.891
ない	16	50%	39	46%	42	45%	97	46%	
dista(大阪府大阪市)									
利用なし	26	81%	70	82%	82	88%	178	85%	.467
利用した	6	19%	15	18%	11	12%	32	15%	
ゲイコミュニティペーパーFight!! 認知									
認知無し	23	72%	40	47%	62	67%	125	60%	.009
認知有り	9	28%	45	53%	31	33%	85	40%	
「やる!プロジェクト」認知									
ある	9	28%	40	47%	21	23%	70	33%	.002
ない	23	72%	45	53%	72	77%	140	67%	
「やる!プロジェクト」資料受け取り									
過去6か月以内にもらった	4	44%	29	73%	15	71%	48	69%	.061
過去6か月以前にもらった	0	0%	1	3%	3	14%	4	6%	
もらったことはない	5	56%	10	25%	3	14%	18	26%	

表 2-6 沖縄地域

	25未満 (N=8)		25-35歳未満 (N=32)		35歳以上 (N=33)		全体 (N=73)		有意差 カイ二乗検定
過去6か月間恋人・彼氏、友達とHIVやエイズ対話経験									
ある	6	75%	18	56%	18	55%	42	58%	.565
ない	2	25%	14	44%	15	45%	31	42%	
mabui(沖縄県那覇市)									
利用なし	2	25%	7	22%	8	24%	17	23%	.968
利用した	6	75%	25	78%	25	76%	56	77%	
コミュニティペーパーZEL 認知									
認知無し	7	88%	31	97%	33	100%	71	97%	.149
認知有り	1	13%	1	3%	0	0%	2	3%	
コミュニティペーパーnankr認知									
認知無し	5	63%	14	44%	12	36%	31	42%	.399
認知有り	3	38%	18	56%	21	64%	42	58%	
さくら通信認知									
認知無し	7	88%	30	94%	33	100%	70	96%	.200
認知有り	1	13%	2	6%	0	0%	3	4%	
「やる!プロジェクト」認知									
ある	3	38%	12	38%	3	9%	18	25%	.020
ない	5	63%	20	63%	30	91%	55	75%	
「やる!プロジェクト」資料受け取り									
過去6か月以内にもらった	2	67%	9	75%	2	67%	13	72%	.933
もらったことはない	1	33%	3	25%	1	33%	5	28%	

MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較 (2) ～Community-Based Organization による HIV 予防啓発活動のプログラム評価～

研究分担者：本間隆之（山梨県立大学看護学部 講師）

金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）

研究協力者：岩橋恒太（特定非営利活動法人 akta）、荒木順子、佐久間久弘、木南拓也（公益財団法人エイズ予防財団/特定非営利活動法人 akta）、柴田恵、阿部甚兵、大島岳（特定非営利活動法人 akta）、市川誠一（人間環境大学）

研究要旨

本研究は、CBO・akta が実施している HIV/AIDS 予防啓発活動を、介入プログラムとして記述することによって、適切なプログラム評価指標を策定すること、さらにそれらの指標を実際に測定することによって、コミュニティへの HIV 予防啓発活動の進展度合いや啓発活動の有効性、改善点の検討といったプロセス評価を行うことを目的とする。東京の CBO の介入地域のひとつである新宿二丁目の商業施設を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を行った。調査期間は平成 27 年 7 月および 10 月。7 月は新宿二丁目内の BAR などの商業施設、10 月はコミュニティセンターakta に来場した人に対してリクルート用カードを配布した。7 月の BAR 調査 85 件および来場者調査 95 件に、昨年度調査の 148 件を加えて計 328 件を分析対象とした。「CBO による予防啓発活動はコミュニティの仲間がやっている活動だと感じる」など、CBO 活動に対して共感を持っている人では検査受検行動及びコンドーム使用行動が高かった。「HIV 陽性の人が身近にいると思っている」人では検査受検行動が高いが、コンドーム使用行動や意図に影響が見られなかった。「HIV/AIDS について話をすることタブー感（ためらい）を感じている」人ではコンドーム使用行動が高いが、検査受検行動には影響が見られなかった。CBO がコミュニティに根差して訴求力の高い HIV/AIDS 予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちに共感（empathy）される HIV/AIDS 予防啓発活動であることが、検査受検行動及びコンドーム使用といった HIV/AIDS 予防行動に関連していた。

A. 研究目的

これまでのロジックモデルを活用したプログラム評価研究から、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした HIV/AIDS の予防啓発を担う Community-Based Organization (CBO)・akta は新宿二丁目という地域を中心に啓発活動を行うにあたり、大きく 2 つのプロセスを踏んでいることが明らかになっている。まず、新宿二丁目の文化や価値観、文脈といっ

たものを尊重しつつ顔と顔を合わせた活動を行うことでコミュニティの一員（仲間）としての存在感とコミュニティからの信頼を獲得する。次に、特別な人ではなく自分たちと同じ二丁目の身近な仲間が行っている HIV 予防啓発活動として演出することで、対象が自分たちへのメッセージだと感じて受け入れることによって訴求力の高いメッセージを伝えることである。

本研究は、当該 CBO が実施している HIV/AIDS 予防啓発活動を、介入プログラムとして記述することによって、適切なプログラム評価指標を策定すること、さらにそれらの指標を実際に測定することによって、コミュニティへの HIV 予防啓発活動の進展度合いや啓発活動の有効性、改善点の検討といったプロセス評価を行うことを目的とする。昨年度試行として検討した CBO が想定する予防啓発メッセージが伝わる基盤となる「文化や価値観の尊重とコミュニティメンバーとしての受け入れと共感」及び「コミュニティ感覚」というコンセプトの評価をさらに進め、予防行動との関連性を評価した。平成 26 年度に新宿二丁目の BAR を中心とした商業施設利用者の調査を、本年度も同様の質問票を用いて継続することによって調査協力者を増やして検討を行った。

B. 研究方法

1. 調査の実施

東京の CBO・akta の介入地域のひとつである新宿二丁目の商業施設を利用するゲイ・バ

図 1、リクルート用カード（表うら）



イセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を行った。調査参加者のリクルートは、調査実施を告知するポスターの掲示とともに、調査サイトへのリンク（QR コード）を記したカードを配布した（図 1）。参加者は各自の保有する携帯端末等からインターネット上の質問票サイトへアクセスし、同意の上参加するものとした。

質問票サイトのトップページにおいて、質問への回答をもって調査趣旨を理解し、参加することに同意したものとみなす旨、説明を記した。

【取り込み基準】回答は同一 IP アドレス、謝礼送付用メールアドレスの酷似者による回答は初回の回答のみを有効回答とした。

2. 調査期間

平成 27 年 7 月および 10 月。7 月は新宿二丁目内の BAR へリクルート用カードを配布して調査参加者を募った。10 月はコミュニティセンターakta に来場した人に対してリクルート用カードを配布した。

3. 質問項目

年齢、新宿二丁目を訪れる頻度、HIV 感染予防行動、国内旅行と旅行先での性行動、CBO による HIV 予防啓発プログラムの認知とコンセプトへの共感（5 項目）、新宿二丁目に対するコミュニティ感覚（4 項目）に関して、選択形式で尋ねた。

コミュニティ感覚は Sense of Community index (McMillan & Chavis, 1986) の日本語版（笹尾ら, 2003) の構成概念を参考に作成した。新宿二丁目にいと、安心感のようなものを感じる（メンバーシップ）、新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる（メンバーシップ）、新宿二丁目でしか得られないものがある（統合とニーズの充足）、新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたい（情緒的結合の共有）の 4 項目について、そう思うからそう思わないまでの 4 件法でたずねた。

4. 分析方法

集計分析には平成27年2月から3月末に同様の質問項目で実施した昨年度の調査データも合算して使用した。質問項目ごとに記述集計を行ない、HIV 予防行動との関連を検討した。

5. 倫理的配慮

本研究の研究計画については名古屋市立大学看護学部倫理委員会より承認を得て実施した(承認番号14025-2)。

C. 研究結果

1. 調査参加者の属性

昨年度の有効回答の148件に加えて、7月のBAR調査85件、来場者調査95件の4か所のリクルートサイトの合計328件を分析対象とした(表1)。いずれのリクルートサイトの参加者も東京および関東の居住者が多数を占めていた。年齢は昨年度(H27年3月)の調査では30歳以下が多いのに対して、H27年度(7月)調査は広く分布した。3月調査と7月調査の介入店舗群の合計(n=201)における年齢の平均値は31.1歳(SD8.5歳)、未介入店舗利用群(n=32)は26.0歳(SD5.6歳)、コミュニティセンター来場者調査群では33.4歳(SD7.4歳)であった。新宿二丁目への来所頻度が週1回以上である人の割合は、BAR調査介入店舗群でおおよそ60%であるのに対して未介入店舗群で47%、コミュニティセンター来場者群では40%であった。

2. 過去6ヵ月間のゲイ向け施設やサイトの利用状況

バーを起点としたリクルートであったため、バー利用が最多である。スマートフォンで利用するゲイ向けアプリを約7割が利用していたのに対して、従来型のパソコンからアクセスするタイプの出会い系サイトやSNSの利用割合はおおむね3割以下であった(表2)。

3. HIV/AIDS 予防行動

生涯HIV検査受検経験は全体で77.4%であ

り、これまでの類似の調査と同等の結果であった(表3)。未介入店舗群が65.6%と比較的少ないのは年齢が若いことによるものと思われる。過去1年間のHIV検査受検経験は全体で58.1%であり、新宿二丁目を中心としたサンプリングによる調査と同等の結果であった(金子典代、他:MSMおよびゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較(1)の報告参照)。一番最近のセックスでのコンドーム使用意図は51.6%から71.4%とサンプリングサイトによりばらつきがあるが半数以上の人がコンドーム使用の意図を持っており、ほぼ同じ割合の人がコンドームを使用していた。

4. CBO活動の受け入れ

「aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく自分の仲間がやっている活動だと感じる」について、「そう思う」「ややそう思う」と回答したのは61.3%、また「aktaのメッセージは自分へのメッセージだと感じる」については57.6%、「aktaのメッセージはHIVや性感感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる」については62.2%、「新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしている」については66.8%、「aktaの活動に共感する」については68.6%であった。いずれも6割程度の人が、aktaの活動コンセプトに共感的な認知を持っており、コミュニティセンターaktaの活動とそのやり方を、共感を持って受け入れていた(表4)。

5. 新宿二丁目に対するコミュニティ感覚

新宿二丁目というコミュニティに関する認知を4項目たずねた。「そう思う」と「ややそう思う」を各質問の該当者として合計した割合を集計した。「新宿二丁目にいると安心感のようなものを感じる(67.4%)」、「新宿二丁目に誇りや愛着のようなものを感じる(59.5%)」、「新宿二丁目でしか得られないものがあると思う(80.5%)」、「新宿二丁目のために何かができることがあれば参加したい(64.9%)」のよ

うにいずれの項目も6割を超える人が新宿二丁目というコミュニティとの結びつきに関する認知を持っており、コミュニティを基盤とした介入の有効性の前提となる「コミュニティ感覚」と呼べるものが存在することが確認された。また、「HIVや性感染症の予防活動に、何らかの形で参加や協力をしたいと思う(61.3%)」、「新宿二丁目にHIVや性感染症の予防活動は必要だと思う(86.0%)」と、新宿二丁目というコミュニティにおいてHIVに関する予防の必要性を認知しており、それに貢献したいという思いを持っていた。一方で、新宿二丁目にはタブー感(ためらい)がある(34.8%)と、3割を超える人がHIV/AIDSについて話することにタブー感を持っていたタブー感を持っていた。

6. コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚と、検査受検行動との関連(表5)

CBO活動への共感に関する項目では、CBO活動の共感や受け入れが高いほど生涯検査受検経験および過去1年以内の検査受検経験ともに高いという有意な関連がみられた。これに対してコミュニティ感覚の項目ではほとんど関連が見られなかった。また、過去6か月間に友達や知り合いと、あるいは彼氏や恋人とHIV/AIDSについて話したことがあると答えた人はそれ以外の人に比べて検査受検経験が高かった。さらに、「友達や知り合いに感染している人はいると思うか」に対して、いると思うまたはいると答えた人では生涯受検経験、過去1年の受検経験ともに高かった。

7. コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚と、コンドーム使用との関連(表6)

検査受検行動と比べて、知人や恋人とのHIV/AIDSについての会話経験は、最近のコンドーム使用行動及び使用意図には影響が見られなかった。HIV/AIDSの話をするにタブー感(ためらい)があるにそう思うと答えた人ではコンドーム使用意図および使用割合が高かった。

8. 29歳以下と30歳以上の比較(表7, 8)

新宿二丁目への来所頻度に有意差はなかった。ゲイショップ、エロ系SNS、スマートフォンのゲイ向けアプリの利用割合は29歳以下において有意に高く、性的なアクティブ度合いと関連して利用するツールが多いことが考えられる。HIV検査受検場所として保健所で受検したことがある人の割合が、若い人において有意に多かった(表7)。webサイトの充実や検索などからの誘導により、選択肢として一番初めに選択される検査サイトは保健所であることが考えられる。CBO活動への共感、愛着や心理的安全性などのコミュニティ感覚、話をするにタブー感、HIV/AIDS予防啓発活動の必要性の認知については、有意な年齢差は観察されなかった。

D. 考察

HIV陽性の人が身近にいると思っている身近感(親近感)は検査受検行動を上げるが、コンドーム使用行動や意図には影響が見られなかった。また、HIV/AIDSについて話することにタブー感(ためらい)を感じている人は、コンドーム使用行動と関連するが、検査受検行動には影響が見られなかった。このことは、検査受検行動とコンドーム使用行動が異なる要因の影響を受けていることを示唆している。HIV/AIDS予防行動とひとまとめにはできないことから、検査受検のための予防啓発と、コンドーム使用などのSafer Sexによる予防啓発のそれぞれについて、明確な啓発メッセージを発信していく必要があるものと考えられる。

E. 結論

CBOがコミュニティに根差して訴求力の高いHIV/AIDS予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちがCBOに対して共感(empathy)を持っていることが重要であることがわかった。つまり、当該CBOをコミュニティの仲間とみなし、コミュニティの雰囲気

気や文化に則した活動をしていると認知し、その活動に共感するとともに支持する感情を持ち、発信されるメッセージは自分に向けたメッセージだと感じる事が、検査受検行動及びコンドーム使用といった HIV/AIDS 予防行動に関連していた。CBO は CBO として当該コミュニティの文化や空気感を把握し、それを活動に反映することで、多様なコミュニティの成員から共感を得て、コミュニティの一人として HIV/AIDS 予防啓発の信頼あるメッセージを発信することが期待される。

F. 発表論文等

学会発表（国内）

- 1) 木南拓也、岩橋恒太、荒木順子、佐久間久弘、大島岳、金子典代、本間隆之、市川誠一. コミュニティセンターを起点とするアウトリーチ活動の効果評価—アウトリーチ介入実施店舗と未実施店舗の比較—. 日本エイズ学会、2015年、東京.
- 2) 本間隆之、岩橋恒太、木南拓也、荒木順子、佐久間久弘、大島岳、金子典代、市川誠一. コミュニティを基盤とした組織 (CBO) の受け入れとコミュニティ感覚—コミュニティセンターakta を起点とするアウトリーチの評価—. 日本エイズ学会、2015年、東京.

表 1. 調査参加者のリクルートサイトと属性

	介入店舗群 (H27年3月)		未介入店舗 群 (H27年3月)		介入店舗群 (H27年7月)		コミュニティセ ンター来場者 調査群 (H27年10月)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
居住地								
北海道東北	1	(0.9%)	1	(3.1%)	2	(2.4%)	0	(0.0%)
東京	81	(69.8%)	17	(53.1%)	61	(71.8%)	65	(68.4%)
関東甲信越 (東京を除く)	31	(26.7%)	11	(34.4%)	19	(22.4%)	21	(22.1%)
北陸	0	(0.0%)	1	(3.1%)	0	(0.0%)	2	(2.1%)
東海	2	(1.7%)	1	(3.1%)	1	(1.2%)	2	(2.1%)
近畿	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	5	(5.3%)
中四国	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
九州	1	(0.9%)	1	(3.1%)	2	(2.4%)	0	(0.0%)
年齢(5歳階級)								
24歳以下	42	(36.2%)	16	(50.0%)	12	(14.1%)	7	(7.4%)
25-29歳	30	(25.9%)	8	(25.0%)	17	(20.0%)	28	(29.5%)
30-34歳	22	(19.0%)	4	(12.5%)	20	(23.5%)	23	(24.2%)
35-39歳	7	(6.0%)	3	(9.4%)	13	(15.3%)	14	(14.7%)
40歳以上	15	(12.9%)	1	(3.1%)	23	(27.1%)	23	(24.2%)
最近3カ月間の新宿二丁目来所頻度								
月1回以下	28	(24.1%)	11	(34.4%)	18	(21.2%)	34	(35.8%)
2,3週間に1回程度	18	(15.5%)	6	(18.8%)	15	(17.6%)	23	(24.2%)
1週間に1回程度	38	(32.8%)	8	(25.0%)	23	(27.1%)	24	(25.3%)
1週間に2回以上	32	(27.6%)	7	(21.9%)	29	(34.1%)	14	(14.7%)

表 2. 過去 6 か月間の施設やサイトの利用状況

	介入店舗群 H27年3月調査 n=116		未介入店舗群 H27年3月調査 n=32		介入店舗群 (7月調査) n=85		コミュニティセ ンター来場者 (10月調査) n=95	
	n	%	n	%	n	%	n	%
	過去6か月以内に利用した施設							
バー(男性限定)	106	(91.4%)	23	(71.9%)	76	(89.4%)	72	(75.8%)
クラブ(男性限定)	49	(42.2%)	8	(25.0%)	30	(35.3%)	40	(42.1%)
ゲイショップ	50	(43.1%)	10	(31.3%)	31	(36.5%)	41	(43.2%)
出会い系サイト	31	(26.7%)	6	(18.8%)	22	(25.9%)	26	(27.4%)
エロ系SNS(HuGs や 男子寮など)	18	(15.5%)	6	(18.8%)	6	(7.1%)	6	(6.3%)
ゲイ向けアプリ (Grindr, Jackd, 9mon)	82	(70.7%)	24	(75.0%)	57	(67.1%)	66	(69.5%)
FacebookやTwitter 等のSNS	75	(64.7%)	17	(53.1%)	40	(47.1%)	60	(63.2%)
ゲイ向けサークル	15	(12.9%)	1	(3.1%)	9	(10.6%)	20	(21.1%)
ゲイ向け合コン	12	(10.3%)	2	(6.3%)	4	(4.7%)	8	(8.4%)
ゲイの乱パ	9	(7.8%)	1	(3.1%)	2	(2.4%)	2	(2.1%)
有料のハッテン場	38	(32.8%)	8	(25.0%)	18	(21.2%)	35	(36.8%)
ゲイが集まる銭湯や 施設	25	(21.6%)	7	(21.9%)	19	(22.4%)	25	(26.3%)
野外のハッテン場	13	(11.2%)	0	(0.0%)	6	(7.1%)	11	(11.6%)

表 3. HIV/AIDS 予防行動

	介入店舗群 H27年3月調査 n=116		未介入店舗群 H27年3月調査 n=32		介入店舗群 (7月調査) n=85		コミュニティセン ター来場者(10 月調査) n=95		合計 n=328		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
生涯検査受検経験											
なし	25	(21.6%)	11	(34.4%)	20	(23.5%)	18	(18.9%)	74	(22.6%)	
あり	91	(78.4%)	21	(65.6%)	65	(76.5%)	77	(81.1%)	254	(77.4%)	
過去1年以内の受検経験(陽性者除く)											
なし	45	(40.9%)	14	(48.3%)	28	(35.0%)	40	(47.6%)	127	(41.9%)	
あり	65	(59.1%)	15	(51.7%)	52	(65.0%)	44	(52.4%)	176	(58.1%)	
一番最近のセックスでのコンドーム使用											
不使用/覚えていない	43	(38.4%)	14	(45.2%)	17	(22.1%)	27	(30.0%)	101	(32.6%)	
使った	69	(61.6%)	17	(54.8%)	60	(77.9%)	63	(70.0%)	209	(67.4%)	
一番最近のセックスでのコンドーム使用意図											
それ以外	46	(41.1%)	15	(48.4%)	22	(28.6%)	29	(32.2%)	112	(36.1%)	
使いたいと思っていた	66	(58.9%)	16	(51.6%)	55	(71.4%)	61	(67.8%)	198	(63.9%)	

表 4. CBO 活動への共感とコミュニティ感覚

	介入店舗群 H27年3月調査 n=116		未介入店舗群 H27年3月調 査 n=32		介入店舗群 (7月調査) n=85		コミュニティセ ンター来場者 (10月調査) n=95		合計 n=328	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
[共感1]aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。										
それ以外	51	(44.0%)	17	(53.1%)	23	(27.1%)	36	(37.9%)	127	(38.7%)
そう思う	65	(56.0%)	15	(46.9%)	62	(72.9%)	59	(62.1%)	201	(61.3%)
[共感2]aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。										
それ以外	58	(50.0%)	19	(59.4%)	30	(35.3%)	32	(33.7%)	139	(42.4%)
そう思う	58	(50.0%)	13	(40.6%)	55	(64.7%)	63	(66.3%)	189	(57.6%)
[共感3]aktaの活動に共感する。										
それ以外	42	(36.2%)	16	(50.0%)	24	(28.2%)	21	(22.1%)	103	(31.4%)
そう思う	74	(63.8%)	16	(50.0%)	61	(71.8%)	74	(77.9%)	225	(68.6%)
[共感4]aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
それ以外	51	(44.0%)	18	(56.3%)	29	(34.1%)	26	(27.4%)	124	(37.8%)
そう思う	65	(56.0%)	14	(43.8%)	56	(65.9%)	69	(72.6%)	204	(62.2%)
[共感5]aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。										
それ以外	40	(34.5%)	19	(59.4%)	23	(27.1%)	27	(28.4%)	109	(33.2%)
そう思う	76	(65.5%)	13	(40.6%)	62	(72.9%)	68	(71.6%)	219	(66.8%)
[コミュニティ感覚1]新宿二丁目にいと、安心感のようなものを感じる。										
それ以外	32	(27.6%)	15	(46.9%)	24	(28.2%)	36	(37.9%)	107	(32.6%)
そう思う	84	(72.4%)	17	(53.1%)	61	(71.8%)	59	(62.1%)	221	(67.4%)
[コミュニティ感覚2]新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
それ以外	39	(33.6%)	18	(56.3%)	30	(35.3%)	46	(48.4%)	133	(40.5%)
そう思う	77	(66.4%)	14	(43.8%)	55	(64.7%)	49	(51.6%)	195	(59.5%)
[コミュニティ感覚3]新宿二丁目ではしか得られないものがあると思う。										
それ以外	16	(13.8%)	15	(46.9%)	13	(15.3%)	20	(21.1%)	64	(19.5%)
そう思う	100	(86.2%)	17	(53.1%)	72	(84.7%)	75	(78.9%)	264	(80.5%)
[コミュニティ感覚4]新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	39	(33.6%)	15	(46.9%)	27	(31.8%)	34	(35.8%)	115	(35.1%)
そう思う	77	(66.4%)	17	(53.1%)	58	(68.2%)	61	(64.2%)	213	(64.9%)
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	49	(42.2%)	17	(53.1%)	31	(36.5%)	30	(31.6%)	127	(38.7%)
そう思う	67	(57.8%)	15	(46.9%)	54	(63.5%)	65	(68.4%)	201	(61.3%)
新宿二丁目では、HIVについて話をするに、タブー感(ためらい)がある。										
それ以外	77	(66.4%)	19	(59.4%)	51	(60.0%)	67	(70.5%)	214	(65.2%)
そう思う	39	(33.6%)	13	(40.6%)	34	(40.0%)	28	(29.5%)	114	(34.8%)
新宿二丁目にはHIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。										
それ以外	15	(12.9%)	6	(18.8%)	9	(10.6%)	16	(16.8%)	46	(14.0%)
そう思う	101	(87.1%)	26	(81.3%)	76	(89.4%)	79	(83.2%)	282	(86.0%)

表 5. コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚と、検査受検行動との関連

	生涯検査受検経験				p値	過去1年以内の受検経験(陽性者除く)				p値
	なし		あり			なし		検査あり		
	(n= 74)		(n= 254)			(n= 127)		(n= 176)		
	n	%	n	%	n	%	n	%		
過去6ヵ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	37	(50.0%)	69	(27.2%)	.000*	53	(41.7%)	47	(26.7%)	.006*
ある	37	(50.0%)	185	(72.8%)		74	(58.3%)	129	(73.3%)	
過去6ヵ月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	57	(77.0%)	159	(62.6%)	.021*	92	(72.4%)	107	(60.8%)	.035*
ある	17	(23.0%)	95	(37.4%)		35	(27.6%)	69	(39.2%)	
あなたの友達や知り合いにHIV(エイズ)に感染している人はいると思う。										
それ以外	51	(68.9%)	90	(35.4%)	.000*	71	(55.9%)	63	(35.8%)	.001*
いる/いる	23	(31.1%)	164	(64.6%)		56	(44.1%)	113	(64.2%)	
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。										
それ以外	37	(50.0%)	90	(35.4%)	.000*	53	(41.7%)	58	(33.0%)	.001*
そう思う	37	(50.0%)	164	(64.6%)		74	(58.3%)	118	(67.0%)	
aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。										
それ以外	41	(55.4%)	98	(38.6%)	.024*	58	(45.7%)	60	(34.1%)	.118
そう思う	33	(44.6%)	156	(61.4%)		69	(54.3%)	116	(65.9%)	
aktaの活動に共感する。										
それ以外	33	(44.6%)	70	(27.6%)	.010*	43	(33.9%)	41	(23.3%)	.041*
そう思う	41	(55.4%)	184	(72.4%)		84	(66.1%)	135	(76.7%)	
aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
それ以外	35	(47.3%)	89	(35.0%)	.005*	53	(41.7%)	52	(29.5%)	.043*
そう思う	39	(52.7%)	165	(65.0%)		74	(58.3%)	124	(70.5%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。										
それ以外	32	(43.2%)	77	(30.3%)	.056	44	(34.6%)	46	(26.1%)	.028*
そう思う	42	(56.8%)	177	(69.7%)		83	(65.4%)	130	(73.9%)	
新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる。										
それ以外	23	(31.1%)	84	(33.1%)	.038*	34	(26.8%)	58	(33.0%)	.110
そう思う	51	(68.9%)	170	(66.9%)		93	(73.2%)	118	(67.0%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
それ以外	28	(37.8%)	105	(41.3%)	.748	44	(34.6%)	76	(43.2%)	.248
そう思う	46	(62.2%)	149	(58.7%)		83	(65.4%)	100	(56.8%)	
新宿二丁目ではしか得られないものがあると思う。										
それ以外	14	(18.9%)	50	(19.7%)	.589	18	(14.2%)	31	(17.6%)	.134
そう思う	60	(81.1%)	204	(80.3%)		109	(85.8%)	145	(82.4%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	25	(33.8%)	90	(35.4%)	.884	43	(33.9%)	55	(31.3%)	.422
そう思う	49	(66.2%)	164	(64.6%)		84	(66.1%)	121	(68.8%)	
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	32	(43.2%)	95	(37.4%)	.794	52	(40.9%)	57	(32.4%)	.632
そう思う	42	(56.8%)	159	(62.6%)		75	(59.1%)	119	(67.6%)	
新宿二丁目では、HIVについて話をするに、タブー感(ためらい)がある。										
それ以外	51	(68.9%)	163	(64.2%)	.364	88	(69.3%)	109	(61.9%)	.126
そう思う	23	(31.1%)	91	(35.8%)		39	(30.7%)	67	(38.1%)	
新宿二丁目にはHIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。										
それ以外	12	(16.2%)	34	(13.4%)	.451	16	(12.6%)	17	(9.7%)	.185
そう思う	62	(83.8%)	220	(86.6%)		111	(87.4%)	159	(90.3%)	

表 6. コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚と、コンドーム使用との関連

	一番最近のセックスでのコンドーム使用意図				p値	一番最近のセックスでのコンドーム使用				p値
	それ以外 (n= 112)		使いたいと思っていた (n= 198)			不使用/覚えてない (n= 101)		使った (n= 209)		
	n	%	n	%		n	%	n	%	
過去6ヵ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	41	(36.6%)	55	(27.8%)	.106	33	(32.7%)	63	(30.1%)	.652
ある	71	(63.4%)	143	(72.2%)		68	(67.3%)	146	(69.9%)	
過去6ヵ月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	69	(61.6%)	131	(66.2%)	.421	64	(63.4%)	136	(65.1%)	.769
ある	43	(38.4%)	67	(33.8%)		37	(36.6%)	73	(34.9%)	
あなたの友達や知り合いにHIV(エイズ)に感染している人はいると思う。										
それ以外	52	(46.4%)	75	(37.9%)	.141	45	(44.6%)	82	(39.2%)	.372
いる/いるよ	60	(53.6%)	123	(62.1%)		56	(55.4%)	127	(60.8%)	
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。										
それ以外	56	(50.0%)	63	(31.8%)	.002*	49	(48.5%)	70	(33.5%)	.023*
そう思う	56	(50.0%)	135	(68.2%)		52	(51.5%)	139	(66.5%)	
aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。										
それ以外	62	(55.4%)	67	(33.8%)	.002*	52	(51.5%)	77	(36.8%)	.011*
そう思う	50	(44.6%)	131	(66.2%)		49	(48.5%)	132	(63.2%)	
aktaの活動に共感する。										
それ以外	45	(40.2%)	50	(25.3%)	.000*	37	(36.6%)	58	(27.8%)	.014*
そう思う	67	(59.8%)	148	(74.7%)		64	(63.4%)	151	(72.2%)	
aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
それ以外	57	(50.9%)	60	(30.3%)	.006*	50	(49.5%)	67	(32.1%)	.112
そう思う	55	(49.1%)	138	(69.7%)		51	(50.5%)	142	(67.9%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。										
それ以外	49	(43.8%)	52	(26.3%)	.000*	40	(39.6%)	61	(29.2%)	.003*
そう思う	63	(56.3%)	146	(73.7%)		61	(60.4%)	148	(70.8%)	
新宿二丁目にいと、安心感のようなものを感じる。										
それ以外	42	(37.5%)	62	(31.3%)	.002*	42	(41.6%)	62	(29.7%)	.067
そう思う	70	(62.5%)	136	(68.7%)		59	(58.4%)	147	(70.3%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
それ以外	44	(39.3%)	81	(40.9%)	.268	46	(45.5%)	79	(37.8%)	.037*
そう思う	68	(60.7%)	117	(59.1%)		55	(54.5%)	130	(62.2%)	
新宿二丁目ですしか得られないものがあると思う。										
それ以外	24	(21.4%)	37	(18.7%)	.780	27	(26.7%)	34	(16.3%)	.193
そう思う	88	(78.6%)	161	(81.3%)		74	(73.3%)	175	(83.7%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	46	(41.1%)	65	(32.8%)	.560	45	(44.6%)	66	(31.6%)	.030*
そう思う	66	(58.9%)	133	(67.2%)		56	(55.4%)	143	(68.4%)	
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	54	(48.2%)	63	(31.8%)	.146	48	(47.5%)	69	(33.0%)	.026*
そう思う	58	(51.8%)	135	(68.2%)		53	(52.5%)	140	(67.0%)	
新宿二丁目では、HIVについて話をするに、タブー感(ためらい)がある。										
それ以外	77	(68.8%)	124	(62.6%)	.004*	72	(71.3%)	129	(61.7%)	.014*
そう思う	35	(31.3%)	74	(37.4%)		29	(28.7%)	80	(38.3%)	
新宿二丁目HIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。										
それ以外	18	(16.1%)	23	(11.6%)	.278	18	(17.8%)	23	(11.0%)	.098
そう思う	94	(83.9%)	175	(88.4%)		83	(82.2%)	186	(89.0%)	

表 7. 年齢別 (29 歳以下と 30 歳以上)、行動の比較

	29歳以下 n=160		30歳以上 n=168		合計 n=328		p値
	n	%	n	%	度数	列の N %	
あなたはここ2,3カ月の間にどの程度新宿二丁目を訪れましたか。							
月1回以下	46	(28.8%)	45	(26.8%)	91	(27.7%)	.774
2,3週間に1回程度	32	(20.0%)	30	(17.9%)	62	(18.9%)	
1週間に1回程度	46	(28.8%)	47	(28.0%)	93	(28.4%)	
1週間に2回以上	36	(22.5%)	46	(27.4%)	82	(25.0%)	
過去6か月以内に利用した施設							
バー(男性限定)	138	(86.3%)	139	(82.7%)	277	(84.5%)	.380
クラブ(男性限定)	65	(40.6%)	62	(36.9%)	127	(38.7%)	.489
ゲイショップ	74	(46.3%)	58	(34.5%)	132	(40.2%)	.030*
出会い系サイト	41	(25.6%)	44	(26.2%)	85	(25.9%)	.907
エロ系SNS(HuGs や男子寮など)	25	(15.6%)	11	(6.5%)	36	(11.0%)	.009*
ゲイ向けアプリ(Grindr, Jackd, 9mon)	120	(75.0%)	109	(64.9%)	229	(69.8%)	.046*
FacebookやTwitter等のSNS	93	(58.1%)	99	(58.9%)	192	(58.5%)	.883
ゲイ向けサークル	18	(11.3%)	27	(16.1%)	45	(13.7%)	.205
ゲイ向け合コン	14	(8.8%)	12	(7.1%)	26	(7.9%)	.590
ゲイの乱パ	8	(5.0%)	6	(3.6%)	14	(4.3%)	.522
有料のハッテン場	51	(31.9%)	48	(28.6%)	99	(30.2%)	.515
ゲイが集まる銭湯や施設	43	(26.9%)	33	(19.6%)	76	(23.2%)	.121
野外のハッテン場	15	(9.4%)	15	(8.9%)	30	(9.1%)	.889
生涯検査受験経験							
なし	45	(28.1%)	29	(17.3%)	74	(22.6%)	.019*
あり	115	(71.9%)	139	(82.7%)	254	(77.4%)	
過去1年以内の受検経験(陽性者除く)							
	n=153		n=150		n=303		
なし	60	(39.2%)	67	(44.7%)	127	(41.9%)	.336
あり	93	(60.8%)	83	(55.3%)	176	(58.1%)	
過去1年に受検した場所							
	n=93		n=83		n=176		
南新宿検査相談所	21	(22.3%)	17	(20.0%)	38	(21.2%)	.395
保健所	49	(52.1%)	35	(41.2%)	84	(46.9%)	.042*
臨時検査	13	(13.8%)	7	(8.2%)	20	(11.2%)	.134
病院や診療所	24	(25.5%)	38	(44.7%)	62	(34.6%)	.078
郵送検査	1	(1.1%)	0	(0.0%)	1	(0.6%)	
その他	3	(3.2%)	6	(7.1%)	9	(5.0%)	
一番最近のセックスでのコンドーム使用							
	n=148		n=162		n=310		
不使用/覚えていない	51	(34.5%)	50	(30.9%)	101	(32.6%)	.500
使った	97	(65.5%)	112	(69.1%)	209	(67.4%)	
一番最近のセックスでのコンドーム使用意図(アナルセックスありの人のみ)							
	n=148		n=162		n=310		
それ以外	55	(37.2%)	57	(35.2%)	112	(36.1%)	.717
使いたいと思っていた	93	(62.8%)	105	(64.8%)	198	(63.9%)	

表 8. 年齢別（29 歳以下と 30 歳以上）、コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚

	29歳以下 n=160		30歳以上 n=168		合計 n=328		p 値
	n	%	n	%	度数	列の N %	
[共感1]aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。							
それ以外	63	(39.4%)	64	(38.1%)	127	(38.7%)	.812
そう思う	97	(60.6%)	104	(61.9%)	201	(61.3%)	
[共感2]aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。							
それ以外	74	(46.3%)	65	(38.7%)	139	(42.4%)	.166
そう思う	86	(53.8%)	103	(61.3%)	189	(57.6%)	
[共感3]aktaの活動に共感する。							
それ以外	53	(33.1%)	50	(29.8%)	103	(31.4%)	.512
そう思う	107	(66.9%)	118	(70.2%)	225	(68.6%)	
[共感4]aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。							
それ以外	64	(40.0%)	60	(35.7%)	124	(37.8%)	.424
そう思う	96	(60.0%)	108	(64.3%)	204	(62.2%)	
[共感5]aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。							
それ以外	53	(33.1%)	56	(33.3%)	109	(33.2%)	.968
そう思う	107	(66.9%)	112	(66.7%)	219	(66.8%)	
[コミュニティ感覚1]新宿二丁目にいと、安心感のようなものを感じる。							
それ以外	54	(33.8%)	53	(31.5%)	107	(32.6%)	.671
そう思う	106	(66.3%)	115	(68.5%)	221	(67.4%)	
[コミュニティ感覚2]新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。							
それ以外	66	(41.3%)	67	(39.9%)	133	(40.5%)	.801
そう思う	94	(58.8%)	101	(60.1%)	195	(59.5%)	
[コミュニティ感覚3]新宿二丁目ではしか得られないものがあると思う。							
それ以外	32	(20.0%)	32	(19.0%)	64	(19.5%)	.828
そう思う	128	(80.0%)	136	(81.0%)	264	(80.5%)	
[コミュニティ感覚4]新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。							
それ以外	60	(37.5%)	55	(32.7%)	115	(35.1%)	.366
そう思う	100	(62.5%)	113	(67.3%)	213	(64.9%)	
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。							
それ以外	62	(38.8%)	65	(38.7%)	127	(38.7%)	.991
そう思う	98	(61.3%)	103	(61.3%)	201	(61.3%)	
新宿二丁目では、HIVについて話をすることに、タブー感(ためらい)がある。							
それ以外	101	(63.1%)	113	(67.3%)	214	(65.2%)	.432
そう思う	59	(36.9%)	55	(32.7%)	114	(34.8%)	
新宿二丁目にHIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。							
それ以外	24	(15.0%)	22	(13.1%)	46	(14.0%)	.619
そう思う	136	(85.0%)	146	(86.9%)	282	(86.0%)	

**商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価
-初性交時周辺に焦点をあてた予防介入-**

研究分担者：塩野徳史（名古屋市立大学看護学部/MASH 大阪）

研究協力者：鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部/MASH 大阪）、後藤大輔、町登志雄、
宮田りりい（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）、大畑泰次郎、
伴仲昭彦（MASH 大阪）、新山賢、岡崎好晃（HaaT えひめ）、
大山治彦（四国学院大学社会福祉学部/HaaT えひめ）、
松本健二（大阪市保健所感染症対策監）、
半羽宏之（大阪市健康局医務監兼保健所感染症対策課長）、
安井典子、細井舞子（大阪市保健所感染症対策課）、
柴田敏之（大阪府健康医療部保健医療室医療対策課長）

研究要旨

本研究は初性交時周辺に焦点をあて、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした新たな啓発介入を開発し、その効果評価を目的としている。啓発介入は CBO と協働で開発し、コミュニティベース調査と大阪市・大阪府と協力し保健所等で HIV 抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査によって評価することとした。本年度は啓発介入プロジェクトを展開し、新型啓発介入に展開・評価するための体制構築を目的とした。

連続横断調査を用いて従来型啓発介入の効果評価を実施した結果、若年層では介入プログラム「やる!プロジェクト」の認知割合は 2.7%（調査 1）、10.2%（調査 2）、16.0%（調査 3）、25.3%（調査 4）と有意に上昇しており（ $p < 0.01$ ）、浸透度は 20 歳代から 30 歳代へと徐々に拡大していることが示唆された。調査 4 では過去 6 ヶ月間の HIV やエイズに関する対話経験（認知あり群 66.7%、認知なし群 49.3%、 $p < 0.01$ ）やコンドーム常用割合（認知あり群 50.8%、認知なし群 38.7%、 $p = 0.10$ ）も認知あり群で高い傾向であったことから、今後の介入効果が期待できる。

受検者中の MSM 割合は 2009 年 5 月、8 月の 5.3% が最も低く、2010 年 12 月には 12.4% となった。それ以降上昇しており、2012 年 10 月以降 10% 以上となっている。2013 年は 13.7%（2 月、3 月）～17.6%（10 月）、2014 年は 13.3%（2 月）～18.6%（4 月）であった。そして 2015 年は 16.5%（2 月）～19.4%（5 月）であり 15% 以上であった。一方、MSM 以外の男性割合は横這いであり、女性割合は徐々に低下していた。受検者アンケートは、参加施設数と回収率が異なるため限界が大きいを受検者における MSM 割合は増加していると考えられる。

A. 研究目的

近畿や中国・四国の MSM の感染動向を背景に、本研究では商業施設に新たに流入してくる層（利用しはじめる層）に対して新たな介入方法を開発し、その効果を明らかにしようと

した。必然的に若年層 MSM が主な対象となると考えられるが、先行研究では日本の MSM の初性交経験は平均 20 歳前後であることが多数報告されており、初性交時周辺に焦点をあてた予防介入を開発することが必要となる。

一方で、ゲイ向け商業施設を利用する若年層では、性行為に至る経路(出会いのツール)がインターネットの台頭によって複雑化しており、従来の資材配布などの予防介入方法では対象をリーチすることが困難となっており、新たな予防介入方法を開発する必要性も言われている。

初年度の研究結果から、初性交時の Condom 使用に影響する要因としては、Condom 使用意図があると使用割合も高く(初性交時の使用割合:意図あり 61.1%、意図なし 15.3%)、使用意図を醸成する啓発が有用と考えられた。そこで、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を 24 歳以下の若年層と仮定し、基礎的な知識や情報を普及し予防ネットワークを形成することを目的とした「やる!プロジェクト」を MASH 大阪と HaaT えひめが協働して開発し、初年度は総数 7,298 セット配布した。

本年度はより効果的に若年層コミュニティに「やる!プロジェクト」を浸透させるために、新たに「やる!プロジェクト TV」を活用したインターネット戦略を開発することを目的とした。また本研究では近畿地域を対象に連続横断調査デザインを用いて啓発介入の効果評価を継続した。

B. 研究方法

1 初性交時周辺に焦点をあてた予防介入

「やる!プロジェクト」の開発と展開

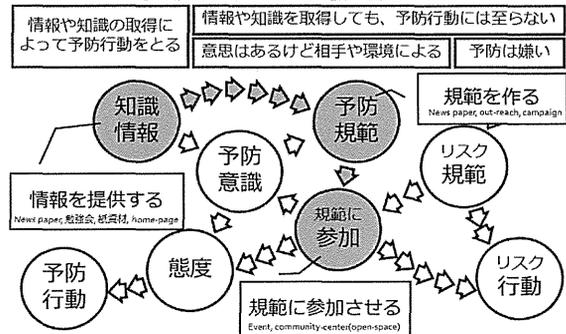
本研究では MASH 大阪、HaaT えひめと協働し、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を 24 歳以下の若年層と仮定して、これまでの経験と予防介入の仮説に従って、予防や性感染症の情報を普及し予防ネットワークを形成することを目的とした「やる!プロジェクト」を展開した。

これは情報を掲載したポストカード・Condom (1~2 個)・ローション(40 g)をセットにして配布するプロジェクトであり、仮設の

第 1 段階にあたる。若年層に訴求力を高める工夫として 1 種類のポストカードに 1 つの情報のみを掲載し、片面には商業施設やゲイコミュニティの間に人気の高いイラストレーターやキーパーソン、コミュニティセンターの利用者を起用した。

商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の背景と仮説

背景：商業施設利用者への介入 予防介入の仮説



そして、ゲイ向けクラブイベントや dista 来場者、若年層向けイベントなど若年層が集まるところで配布した。いろいろな種類のポストカードを混ぜて配布することで長期間にわたり情報を補完的に配布することとした。本年度は MSM に必要な情報として、薬物使用に関するもの、HIV 陽性に関するものを加えた(従来型啓発介入)。



また新型啓発介入として、本プロジェクトのホームページ「やる!プロジェクト TV」の作成を進めた。作成する過程で、インターネ

ットにおける訴求性を考慮して、他地域のCBOの意見をふまえて展開できる体制の構築を目指し、10月、12月、平成28年3月に連携会議を開催した。その結果、連携体制は、初年度近畿地域（大阪）・中国・四国地域（愛媛）だったが、本年度に沖縄地域と東海地域（名古屋）が展開に加わった。これらの地域と体制構築を慎重に進め、ホームページ開設を2016年2月とした。そのため研究デザインとしては平成27年8月の調査も従来型啓発介入の資料とし、平成28年1月から平成28年7月までの6ヶ月間を広報期間として、その認知によって訴求力を測ることとした。

2 コミュニティベース調査

1) 調査方法

初性交時の状況を明らかにし、展開した従来型啓発介入における訴求性を示すベースラインを得るために、コミュニティベース質問紙調査(GCQ アンケート)を初年度と同様の方法・質問項目で実施した。第3回目の調査は平成27年6月30日から8月17日までの49日間、第4回目は配布が終了する時期にあわせ平成27年12月8日から平成28年1月13日の37日間実施した。

2) 分析方法

得られたすべての回答のうち、近畿地域に居住するMSMおよびゲイ・バイセクシュアル男性を分析対象とした。それぞれの調査について年齢を24歳以下、25歳-29歳、30-34歳、35-39歳、40-44歳、45歳以上の6区分の年齢層に分類し、比較した。次いで調査回答者の属性・検査行動・性行動・啓発介入への接触状況に関して、第1回目と第2回目、第3回目、第4回目の調査結果についてカイ2乗検定を用いて分析した。また「やる!プロジェクト」認知別に分析し、認知群と非認知群の特性を明らかにしようとした。

データの集計および統計処理には IBM

SPSS Statistics 19 を用いた。統計的有意水準は5%未満とした。

なお、本調査は名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より実施の承認を得ている。

(2014年8月26日改定、ID番号14025-2)

3 HIV抗体検査受検者を対象とした調査

1) 調査方法

啓発介入に効果があった場合には、MSMにおける検査行動が促進されることとなり、保健所等のHIV抗体検査を利用するMSMが増加することが考えられる。副次項目の指標とする目的で、本研究では大阪市・大阪府の施策担当者に研究協力者となっていただき、大阪市・大阪府の実施するHIV抗体検査の受検者を対象とした無記名自記式質問紙調査を集計・分析し、MSM受検者の動向を把握することとした。

2) 分析方法

分析に用いた質問項目は年齢、居住地、性別、性行為経験、生涯における性行為相手の性別、過去6ヶ月間の金銭を介した性行為経験、HIV抗体検査受検経験と受検時の状況であり、個人を特定する情報は含まなかった。

分析では年齢を19歳以下、20歳-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60歳以上の6区分の年齢層に分類した。居住地については大阪府内在住者とそれ以外の都道府県在住者に分類した。

本研究ではMSMを「これまでに同性間性的接触を有した男性」と定義し、性別の他に、これまでに性行為をした相手の性別について尋ねた。選択肢は、性別では男性、女性、その他とし、性行為をした相手の性別は男性のみ、女性のみ、男性と女性の両方とした。分析ではこれまでに男性もしくは男性と女性の両方と性行為経験のあった男性をMSMとして分類し、MSM以外の男性、女性、MSMの3群を性的指向として分析を進めた。また検査場所